

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年7月15日

【四半期会計期間】 第43期第3四半期(自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)

【会社名】 株式会社サイゼリヤ

【英訳名】 SAIZERIYA CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀埜 一成

【本店の所在の場所】 埼玉県吉川市旭2番地5

【電話番号】 048(991)9611(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画室長兼財務部長 潮田 淳史

【最寄りの連絡場所】 埼玉県吉川市旭2番地5

【電話番号】 048(991)9611(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画室長兼財務部長 潮田 淳史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第42期 第3四半期連結 累計期間	第43期 第3四半期連結 累計期間	第42期
会計期間		自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日	自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日	自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日
売上高	(百万円)	92,069	102,064	125,618
経常利益	(百万円)	3,803	5,411	5,917
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,221	3,020	1,193
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,320	4,180	2,414
純資産額	(百万円)	68,532	72,201	68,643
総資産額	(百万円)	86,630	95,087	87,224
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	24.22	59.84	23.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		59.55	
自己資本比率	(%)	78.9	75.8	78.5

回次		第42期 第3四半期連結 会計期間	第43期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日	自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	21.62	32.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第42期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額及び第42期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢に改善がみられ、緩やかな景気回復基調が続きました。しかしながら、消費動向につきましても、回復の兆しはあるものの、物価上昇に伴う実質所得の減少傾向が続いており、先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、円安による輸入価格の高騰や原材料価格の高騰等の問題が深刻化しており、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループといたしましては、国内外における継続的な新規出店やメニューの改善、店舗サービスの強化等、さらなる収益力の向上に取り組んでまいりました。

これらの取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,020億64百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は50億72百万円（前年同期比44.3%増）、経常利益は54億11百万円（前年同期比42.3%増）、四半期純利益は30億20百万円（前年同期比147.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

当社は平成26年4月の消費税8%への増税の際に、ほぼ全商品の税込価格を据え置いております。1年が経過し、お客様には実質値下げしたことによるお徳感が理解され始め、既存店の客数増加として現れております。その結果、売上高809億91百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は31億54百万円（前年同期比31.3%増）となり、売上高は過去最高を記録致しました。

豪州

当社で使用する食材の製造等を行っており、売上高33億22百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は97百万円（前年同期比17.4%減）となりました。

アジア

新規出店による新規顧客の獲得や知名度の浸透に努め、売上高210億45百万円（前年同期比43.8%増）、営業利益は18億7百万円（前年同期比76.9%増）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は950億87百万円となり、前連結会計年度末と比較して78億62百万円の増加となりました。主な要因は、現金及び預金の増加91億57百万円や機械装置及び運搬具の減少3億71百万円、投資有価証券の減少4億86百万円などです。

負債は、228億85百万円となり、前連結会計年度末と比較して43億4百万円の増加となりました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金の増加11億30百万円、長期借入金の増加12億37百万円などです。

純資産合計は722億1百万円となり、前連結会計年度末と比較して35億58百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は75.8%となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

特記事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	73,208,000
計	73,208,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年7月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	52,272,342	52,272,342	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	52,272,342	52,272,342		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年3月1日～ 平成27年5月31日		52,272		8,612		9,007

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,769,500		
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 50,407,100	504,071	
単元未満株式	普通株式 95,742		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	52,272,342		
総株主の議決権		504,071	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の株式数には(株)証券保管振替機構名義の株式が600株、また、議決権の数には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

【自己株式等】

平成27年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社サイゼリヤ	埼玉県吉川市旭2-5	1,769,500		1,769,500	3.38
計		1,769,500		1,769,500	3.38

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年3月1日から平成27年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,134	27,291
テナント未収入金	1,410	1,303
商品及び製品	5,137	5,930
原材料及び貯蔵品	985	949
繰延税金資産	524	799
その他	2,783	2,632
流動資産合計	28,975	38,907
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	26,746	26,722
機械装置及び運搬具（純額）	3,229	2,858
工具、器具及び備品（純額）	4,575	4,781
土地	6,975	6,970
リース資産（純額）	132	124
建設仮勘定	397	359
有形固定資産合計	42,055	41,817
無形固定資産	472	814
投資その他の資産		
投資有価証券	825	339
敷金及び保証金	9,411	9,790
建設協力金	1,718	1,391
繰延税金資産	1,696	1,606
その他	2,083	434
貸倒引当金	15	15
投資その他の資産合計	15,720	13,548
固定資産合計	58,249	56,180
資産合計	87,224	95,087

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,021	5,301
1年内返済予定の長期借入金	2,078	3,208
リース債務	8	8
未払法人税等	561	1,125
賞与引当金	1,158	1,906
株主優待引当金	208	155
資産除去債務	10	41
デリバティブ負債	13	-
その他	6,097	6,402
流動負債合計	15,158	18,150
固定負債		
長期借入金	-	1,237
リース債務	131	124
繰延税金負債	32	22
資産除去債務	2,871	3,019
その他	387	330
固定負債合計	3,422	4,734
負債合計	18,581	22,885
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,612	8,612
資本剰余金	9,007	9,107
利益剰余金	49,510	51,622
自己株式	2,212	1,983
株主資本合計	64,917	67,359
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	-
為替換算調整勘定	3,533	4,679
その他の包括利益累計額合計	3,519	4,679
新株予約権	205	162
純資産合計	68,643	72,201
負債純資産合計	87,224	95,087

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
売上高	92,069	102,064
売上原価	33,847	38,242
売上総利益	58,222	63,821
販売費及び一般管理費	54,706	58,748
営業利益	3,515	5,072
営業外収益		
受取利息	166	187
為替差益	-	22
デリバティブ評価益	41	13
その他	105	127
営業外収益合計	313	350
営業外費用		
支払利息	9	7
為替差損	10	-
その他	6	4
営業外費用合計	25	12
経常利益	3,803	5,411
特別利益		
補償金収入	-	148
新株予約権戻入益	-	27
その他	3	0
特別利益合計	3	175
特別損失		
減損損失	1,195	535
固定資産除却損	214	63
店舗閉店損失	39	24
その他	0	1
特別損失合計	1,449	624
税金等調整前四半期純利益	2,357	4,962
法人税、住民税及び事業税	1,500	2,140
法人税等調整額	364	198
法人税等合計	1,135	1,941
少数株主損益調整前四半期純利益	1,221	3,020
四半期純利益	1,221	3,020

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,221	3,020
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	13
為替換算調整勘定	1,091	1,145
その他の包括利益合計	1,098	1,159
四半期包括利益	2,320	4,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,320	4,180
少数株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(追加情報)

(法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から平成27年9月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.7%に、平成28年9月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.0%となります。

この税率変更により、当第3四半期連結累計期間の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が144百万円減少し、法人税等調整額(借方)が144百万円増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. テナント未収入金

ショッピングセンター及び百貨店等にテナントとして出店している店舗の売上金入金額から相殺すべき賃借料、水道光熱費及び諸経費を差し引いたショッピングセンター及び百貨店等に対する未収入金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
減価償却費	4,443百万円	4,245百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月27日 定時株主総会	普通株式	908	18	平成25年8月31日	平成25年11月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月27日 定時株主総会	普通株式	908	18	平成26年8月31日	平成26年11月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	豪州	アジア	計	
売上高					
外部顧客への売上高	77,341	89	14,638	92,069	92,069
セグメント間の内部売上高 又は振替高		3,200		3,200	3,200
計	77,341	3,290	14,638	95,270	95,270
セグメント利益	2,402	118	1,021	3,542	3,542

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,542
セグメント間取引消去	27
四半期連結損益計算書の営業利益	3,515

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった台湾薩莉亜餐飲股份有限公司、北京薩莉亜餐飲管理有限公司、HONG KONG SAIZERIYA CO.LIMITED及びSINGAPORE SAIZERIYA PTE.LTD.を連結範囲に含めたため、報告セグメントを「中国」から「アジア」に名称変更しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	豪州	アジア	計	
売上高					
外部顧客への売上高	80,991	27	21,045	102,064	102,064
セグメント間の内部売上高 又は振替高		3,295		3,295	3,295
計	80,991	3,322	21,045	105,359	105,359
セグメント利益	3,154	97	1,807	5,059	5,059

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「アジア」セグメントにおいて、店舗数が増加した結果、前連結会計年度末に比べ当第3四半期連結会計期間末の同報告セグメントの資産の金額は、3,494百万円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,059
セグメント間取引消去	13
四半期連結損益計算書の営業利益	5,072

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	24円22銭	59円84銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,221	3,020
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,221	3,020
普通株式の期中平均株式数(千株)	50,446	50,475
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(注)		59円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)		245
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 7月14日

株式会社サイゼリヤ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松田道春印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大和田貴之印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サイゼリヤの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年3月1日から平成27年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サイゼリヤ及び連結子会社の平成27年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。